

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和3年 3月 30日

学校法人のびる学園
幼保連携型認定こども園
のびる幼稚園
園長 月野幸子

学校評価委員会 佐藤真音 天野かほり 小野孝一
中島英輔 山脇良子 佐藤真樹 石神祐里枝

1. 本園の教育目標

「自分で遊びを見つけられる子」

遊びは、子どもの生活の全てです。自分で遊びを見つけられる事ができたときに、子どもは初めて自己の確立の第一歩を踏み出したことになります。一人遊びでも集団遊びでも子どもが見つけた遊びを否定せず、認める事が大切だと考えます。

「他人を思いやる心」「自然を大切に作る心」「自分を大切に思う心」は、自分で遊びを見つけられる子になる大切な3つです。そしてのびる幼稚園が大切に思っている「博愛」の大切な表れだと考えます。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

＜今年度 学年目標＞

- 0歳児…一人ひとりの発達に応じた援助のもと、離乳の完了や歩行の完了を促し、身の回りのものへの興味・関心を広げる。
- 1歳児…一日の生活リズムを整えながら、食事・排泄・着脱など、身の回りのことを自分でしようとする
- 2歳児（満3歳児）…象徴機能や想像力を広げながら、集団活動に参加する。
- 3歳児…身近な仲間や自然等の環境と積極的にかかわり、意欲を持って活動する
- 4歳児…信頼感を深め、仲間と共に感情豊かな表現をする
- 5歳児…集団生活の中で自立的・意欲的に活動し、体験を積み重ねる

＜今年度園内研修＞

体と頭を使って遊んで学べる子

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	ガイドラインを基に園独自のマニュアルを制作し直し、職員間で共有し統一する。	B	新型コロナウイルス感染症の流行禍に伴い園外研修が中止・オンライン研修となった。園内の新型コロナウイルス感染症対策・保健衛生の共通理解が必要であったので、感染症研修のDVDを利用し、園内研修を行った。ガイドラインの学習をし、職員の共通理解を図り、園独自のマニュアルを見直した。
2	教職員間のコミュニケーションの円滑と環境作り	B	連携を無理に進めようとする、トラブルになることがあるので、慌てずに進めるようにした。職員室に「元気に挨拶」「心のゆとりと笑顔」の保育教諭間の目標を目の届く所に掲示し、心掛けるようにした。役割分担をしているが、複数で担当している係においては、決まった保育教諭に負担がいつてしまう傾向にあった。学年のチーム保育にこだわりすぎてしまう様子も見られた。園全員の職員で一人一人の子ども達を見守る、のびる幼稚園本来の保育、チーム保育を見直して行きたい。

3	園内研修に取り組む。 「体と頭を使って遊んで学べる子」	B	<p>子どもの遊びを基に、各保育教諭から園内研修課題となる内容を持ち込み、研修を行った。2年間に渡って行ってきた「体を使って学んで遊べる子」という課題について、意識し保育を進めようとする姿が見られた。</p> <p>遊びについては、コロナウイルス感染症対策に気を配っていたため、外遊びが多くなり、身体を動かすことが増えた。その分、自粛体制にある幼稚園部と保育部との差が出たため、子ども達の関係を回復するために、ルールのある遊びを保育に取り入れ、共有感を持つ保育を心掛けた。</p> <p>3学期は歌とオペレッタの会では、子ども達が役になりきって、自分なりの表現で楽しんでいる姿があった。また、お友達と一緒にいることを楽しんでいた。</p>
---	--------------------------------	---	---

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が出たため4月10日から5月17日まで園も自粛期間とした。自粛期間後、密を避けるため、少人数でのクラス活動とした。園内のコロナウイルス感染症対策として、メディアやマニュアル・保育雑誌を参考にし、毎日、玩具・遊具・ドア等の消毒、換気等衛生面に心掛けた。毎日のことなので、保育教諭の負担となったが、よく出来ていた。今年度は感染症にかかる子どもが少なかった。保護者への園の立ち入りを縮小し、行事の方法も密にならないよう、学年ごとの開催等変更した。自粛期間や密を避けて出来なかった活動も多く、3学期の活動まで、その期間の保育の補充をすることとなった。</p>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教師間の連携	<p>役割分担されている仕事の明確化と責任を持って取り組む。問題点や良い点を発見し、保育教諭としての資質向上に図る。</p> <p>お互いに心地よく感じる挨拶・言葉遣いに心掛け、教師間のコミュニケーション能力の向上に努める。</p>
2	園内研修	<p>園内研修課題「遊びや生活の中で、自分から進んで学び、楽しいことを発見したことを伝え合い、力を合わせて活動できる～今ある子どもの姿を大切に、保育を考える～」について、考える。</p> <p>学年のことも、時には園全体のことと捉えて、目の前の保育を中心に園内研修を行う。</p> <p>身近な子ども達の「困った！」に答える保育の在り方と問題点を考える。保育教諭の対応について話し合い、経験年数を乗り越えて捉え方や取り扱いを探し深めていく。</p>
3	マニュアル	園独自のマニュアルを見直し、職員間で共有し統一する。
4	会議方法	会議に時間がかかりすぎているので、スムーズに会議が進められるよう方法を考える。現状報告だけでなく、次のステップへの良いアイデアを出せるような会議の進め方とする。

6.学校関係者評価委員会の評価

- コロナ禍の中での教育は大変です。しかし、のびる学園はきめ細やかな対応がなされていました。
- 子どもがのびのび行動し、挑戦する機会も多く、達成感を味わっていました。
- 先生方の一生懸命さもよく見え、頼もしく思います。よく頑張っています。
- 長引くコロナ禍の中で、教師としての仕事がとて多くなり大変な事ばかりの現状において良く話し合われ取り組まれていると思います。
- 園としては大きくなっていますが、のびるとしての教育方針がよく引き継がれていて感心しています。中でも、子どもの心を大切にされている事がよく伺われます。
- 全体としての評価は「A」といっても良いと思います。
- 目標達成度については、はっきり分かりませんが、取り組んでいる姿勢（細微に観察指導が行き届いている）・結果に関しては120点の評価をしたい。評価Aです。
- 教育目標に向って園全体で取り組んでいることが良くわかった。（教え込むのではなく、子ども達に考えさせる場面を大切にしていること等、とても良いと思う）
- コロナ禍の中で平常の保育や行事とは違うことを強いられることがある中、その状況の中で1番良いと思う方法を取るよう努力できていた。
- 安全対策、衛生面についても以前から良くできていたが、コロナ禍ということで更に気を配り徹底して出来ていたと思う。
- 令和2年度に出た課題に向けて取り組み更に素晴らしい園になることを楽しみにしています。
- コロナ禍の中の保育は難しかったと思いますが、話し合い上手にできた。
これは、今まで、園の父母、職員の日頃の実践がものいったと思われる。
- 今年度はコロナウイルスに振り回されて大変だったと思います。オペレッタ、クリスマス会を観させてもらって、子ども達の様子を見て、のびのびと元気な歌声から、園での保育が行き渡っていたように感じました。今やられている事を先生方が一生懸命やられていたのだと思います。
- 「子どもが見つけた遊びを否定せず、認めることが大切」という教育目標がのびる幼稚園らしくてとても素晴らしいと思います。今後も大切にしたい。
- 今年度は新型コロナウイルス感染症対策にとて全力いただいたことが伝わってきました。保護者として大変有り難く思います。
- 様々な課題に取り組まれていると頭が下がる思いです。多方面に渡り園として努力している事が伝わってきました。